

中学校第2学年 国語科 学習構想案

日時 令和3年9月29日(水)第5校時

場所 山鹿中学校 2年1組 教室

指導者 教諭 佐々木 勇太

1 単元構想

単元名	4 説得力を高める 根拠を吟味して書こう「地図」の意見文 (東京書籍 新しい国語 pp. 101-106)		
単元の目標	(1)自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠の適切さについて吟味することができる。 〔知識及び技能〕(2)7 (2)文章の構成を工夫し、分かりやすく説得力のある意見文を書くことができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ (3)言葉が持つ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切にして、自分の思いや考えを進んで伝え合おうとする。 「学びに向かう力・人間性等」		
単元の評価規準	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)7)	「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)	積極的に自分の文章の改善点を見だし、学習課題に沿って意見を述べる文章を書こうとしている。
単元終了時の生徒の姿(期待される姿)			
議論を通して、根拠を吟味し、自分の考えを練り上げ意見文にまとめることができる生徒			
単元を通した課題(単元の中心的な課題)		本単元ではたらかせる見方・考え方	
根拠を吟味して意見文を書こう。		具体性や客観性などから生じる根拠の説得力の違いに着目し、様々な角度から根拠を吟味することを通して、言葉への自覚を高める。	
指導計画と評価計画(4時間取扱い 本時 4/4)			
過程	時間	学習活動	単元の評価規準
課題把握	1	○教材冒頭の問いかけと目標を確認し、「学習の流れ」を見て、見通しを持つ。 ○「学びの扉」で論証の説得力を見極めるポイントを理解する。	【知技】ノート 文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ 【知技】ノート 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)7
課題追究・課題解決	2	○意見文の題材となる問題について検討し、自分の立場を決める。 ○根拠を考え吟味したうえで、お互いの根拠を吟味し合う。 ○吟味した根拠を用いて意見文を書き、読み合って感想を交換する。	【思判表】ワークシート 「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。B(1)イ 【主体的】観察、発言、ワークシート 根拠を吟味したり構成を工夫したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しを持って、分かりやすく説得力のある意見文を書こうとしている。
新たな課題・まとめ	1	○根拠を吟味しながら、地図をもとにした意見文を書く。	【思判表】ワークシート 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。B(1)ウ

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
中学校学習指導要領 2 学年 ・自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠の適切さについて吟味する。〔知技〕(1)㍑ (2)7 ・文章の構成を工夫し、分かりやすく説得力のある意見文を書く。〔思判表〕B(1)㍑,㍕				
教材・題材の価値				
自分の意見を伝えるためには、意見文を支える根拠を明確に示さなければならない。更に、ただ根拠を挙げるのではなく、その根拠が適切であるかどうかを考えることも、説得力を高めるうえで重要である。根拠が確かな事実などに基づいたものなのか、根拠から意見が適切に導かれているかなど、根拠を吟味することは、論証の説得力を見極めることにつながる。自分の考えに説得力を持たせて表現するためだけでなく、他者の意見を批判的・分析的に検討したりするためにも、根拠を吟味することの実際を経験することは重要である。				
本単元における系統				
中 1 「根拠を明確にして書こう」 ・根拠を示す ・読んで確かめ合う ➡ 中 2 「根拠を吟味して書こう」 ・根拠を吟味する ・分かりやすい構成で意見文をまとめる ➡ 中 3 「観察・分析して論じよう」 ・複数の対象を比較し、特徴を多面的に捉える ・説得力のある批評文を書く				
生徒の実態(単元につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身につけておくべき基礎・基本の定着状況(令和 2 年度県学力)				
調査内容	正答率(本校)		目標値	
話し手の意見に対し自分の考えを持ち質問することができる。	69.6		60.0	
意見をもとに伝えたいことを明確にして書くことができる。	63.9		55.0	
自分のとった立場の理由を書くことができる。	82.0		75.0	
■本単元の学習に関する意識の状況(%)				
調査内容	とても	まあまあ	あまり	ない
根拠をもとに自分の意見を伝えることができる。	7	40	42	11
自分の考えを意見文にまとめることができる。	38	47	14	1
相手の意見と自分の意見を比較しながら考えることができる。	7	74	10	9
■考察				
学級の実態としては、明るく活発な雰囲気で見聞を言い合うことができる。しかし、学力の差も大きく、苦手分野になるとなかなか自信を持って意見を伝えきれないところもある。議論の際は、意見を言い合う生徒が固定化しがちな傾向も見られる。意見文を書く際は、比較的スムーズに書くことができるが、生徒によっては非常に苦手意識を持っているところもある。				

3 研究テーマ「問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める子供を育成する授業づくり」との関連

- 視点1 導入：生徒が問いを発する工夫
電子黒板やタブレットを使用し、視覚的に情報を示す。【なぜ・おそらく】
- 視点2 展開：自分の考えをもって課題に取り組ませる工夫
議論を中心にして、テーマや根拠について多面的・多角的に捉えさせる。【やってみよう】
授業アプリ(ロイロノート)を活用し、議論するうえでのヒントを示す。【やってみよう】
- 視点3 終末：自分の学びを深めさせる工夫
学習を生活につなげることができるように振り返りの視点を示す。【もっとやってみよう】

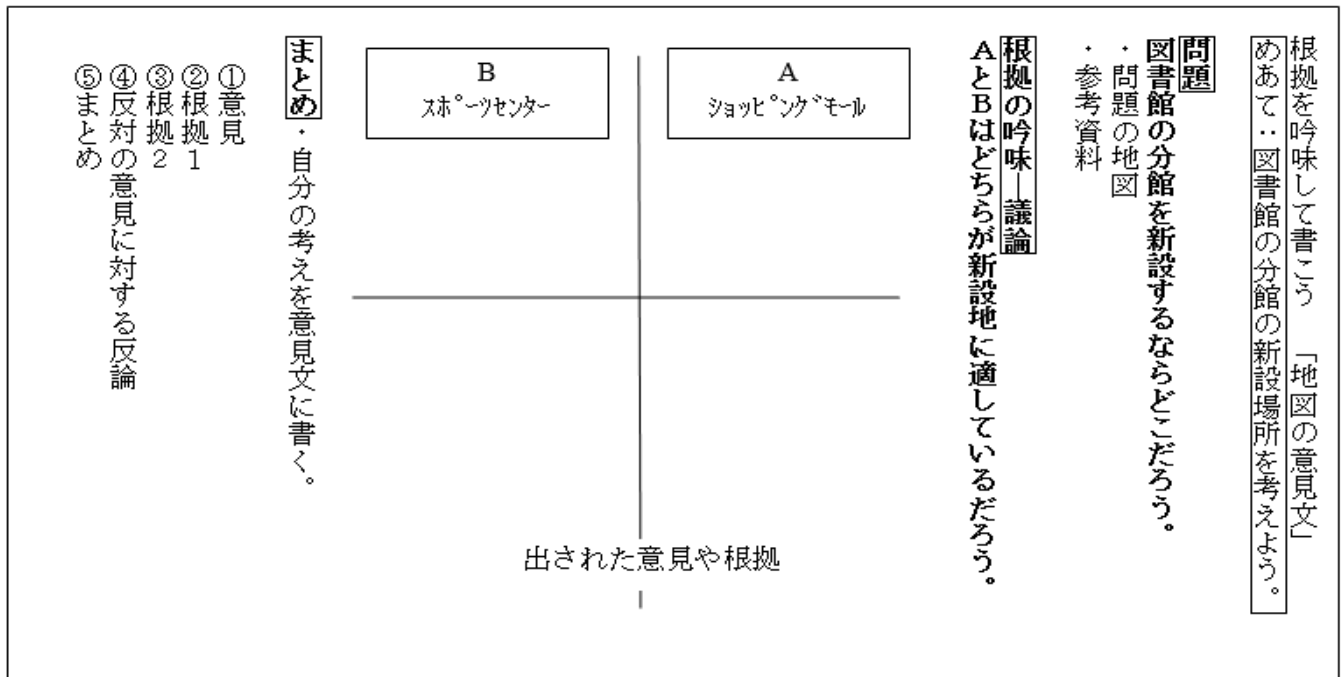
4 本時の学習

(1)目標 根拠を吟味しながら地図をもとにした意見文を書くことができる。

(2)展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 課題把握をする。 教科書の問題を読み、課題を把握する。	- ICT や図表を使い、課題を整理して伝える。 ○タブレットを使用し、市の情報を共有させる。
		本時の目標（めあて）：図書館の分館の新設場所を考えよう。 学習課題：根拠を吟味して、意見文を書く。	
展開	35分	2 自分の立場と根拠を考える。 - A, B のメリットとデメリットを考える。 - 自分の立場を示す。 ◇A は駅に近く、利便性が高い。 ◇B は中学や高校に近く、生徒が利用しやすい。 3 議論を通して根拠を吟味する。 - 学級全体で議論を行う。 - 途中で立場を変えてもよい。 - 議論の際は根拠を示す。 ・【課題解決のプロセス】(設定の意図) ・相手の意見に同意したり根拠を基に反論したりすることを通して、自らの根拠を吟味させる。また、それぞれの立場を多角的な視野で捉え、考えを練り上げていく。 4 意見文を書く。 - 意見-根拠 1-根拠 2- - 反対意見への反論-まとめ まとめ：自分の書いた意見文[意見-根拠 1-根拠 2-反対意見への反論-まとめ]を隣どうして共有し、全体発表を行う。 ・【期待される学びの姿】 - 様々な視点から根拠を吟味し、自分の考えを練り上げ意見文にまとめる姿。	○A, B のメリットとデメリットを隣どうして伝え合わせる。 - 列指名において全員が自分の立場を発表する場を設定する。 ○自分の意見と違う意見があることを抑えさせ、自分がそう考える根拠は何なのかを吟味させる。 ○議論を通して根拠を吟味させる。 - 論点がずれないように調整する。 - 吟味の視点を与える。 - タブレットを使い自分の立場の見える化を図る。 〈目標に達しない生徒への手立て〉 ○議論を聞きながらメモを取らせ、自分の意見の参考にさせる。 ○意見文を書かせ、自分の考えをまとめさせる。
終末	10分	5 まとめを行う。 - 最終的な自分の考えを発表する。 - 吟味する際のポイントを押さえる。 6 本時を振り返る。 - 根拠を吟味して意見文を書く学習を通して、どんな力が身についたか、その力をこれからの学習や生活でどう生かしていきたいかを振り返る。	○互いの意見と比較しながら聞かせる。 ○学習が今後の生活や生き方につながることを実感させる。

5 板書計画



6 ICT 活用計画

電子黒板・タブレットで確認するもの

【導入場面】

問題の地図と参考資料

【展開場面】

地図の中の情報
意見文の書き方

7 見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画

根拠を吟味して意見文を書く学習を通して、どんな力が身についたか、その力をこれからの学習や生活でどう生かしていきたいかを振り返らせる。